

●地域連携センター開設記念講演会を開催しました

日時：令和4年11月15日(火)14:05-15:55

場所：札幌大学SUcole 8402・8502教室、鶴川高校体育館（Zoom）

参加者：本学学生・教職員、鶴川高校1年生

内容：第1部：「携帯がケータイに変わる」（札幌大学 大森義行学長）

第2部：「若者と現代のネット社会」（北海道むかわ町穂別診療所副所長 中塚尚子氏）

札幌大学地域連携センター開設記念講演会を開催しました。本講演会はハイフレックス形式で行われ、本学では対面、鶴川高校とはZoomで繋ぎ、双方向に意見交換ができるような形で行いました。

第1部のテーマは「携帯がケータイに変わる」。本学の大森学長から、デジタル社会で使われる代表ツールのスマートフォンがこれまでにどのような進化を遂げ、現在の形や機能を持ち合わせるようになったのか、現代におけるケータイの役割なども含め、携帯電話の歴史についてお話いただきました。



第2部では、むかわ町に縁のある、北海道むかわ町穂別診療所副所長の中塚尚子先生（ペンネーム：香山リカさん）をお迎えし、「デジタル依存症と罫」という著書をお持ちの中塚先生から「若者と現代のネット社会—大切なふたつのポイント、お話しします—」をテーマに講演いただきました。

中塚先生からは、パソコン・スマートフォンの普及が私たちの心に与える影響、生活の便利さの一方で起こるプライバシーの問題、誰にも踏み込めない自分だけの時間やスペースを持つことの大切さなどについてお話いただき、改めて多様なツールやコンテンツとの付き合い方を考える時間となりました。



むかわ町穂別診療所副所長 中塚尚子氏
（日本精神神経学会専門医・指導医、産業医、健康スポーツ医）

札幌生まれ、小樽育ち。これまで東京に拠点を置き、医師・大学教授・執筆など幅広く活動してきた。今年からむかわ町国民健康保険穂別診療所に赴任し、地域医療に携わる。また、「香山リカ」のペンネームでも活動している。

【参加学生の感想(一部抜粋)】

- ・ ネットにのめり込みすぎず、適度な距離間で使用することが自分の心を守ることに繋がると感じた
- ・ こころの秘密はとても心に響いた。誰にも邪魔されない秘密基地が自分にも必要だと感じた
- ・ 現実とネットを別々に考えることで不安を煽られることが少なく、ネットは補助(便利な物)だと考えることで生きることが嫌になることが少なくなると思った。
- ・ 中塚先生がお話してくださったスマホと心は繋がるという考えに共感した。スマホの先にはSNSなどの様々なアプリを通じて人と繋がっていて、目の前に人がいるのと同じだと意識して利用したい。



●札幌大学×鶴川高校 合同ディスカッション学習を実施しました

日時：令和4年11月1日(火)・29日(火)

場所：オンライン (Zoom)

参加者：本学学生、鶴川高校1年生

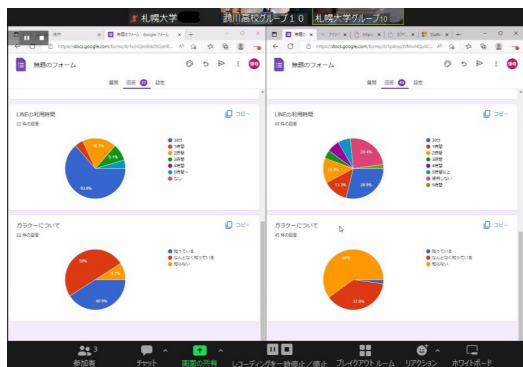
内容：11月15日開催の講演会の事前・事後学習

今回の講演会を開催するにあたり、情報に関する学習を深めるため、本学学生と鶴川高校の1年生が合同でディスカッション学習を行いました。

本学学生は、事前にアンケート項目の作成や回答データの分析作業を行ったり、8つに分かれた高大混合グループでのディスカッション学習でファシリテートを担当しました。

事前学習では、大学生が作成したアンケートの分析結果をもとに、高校生と大学生との情報に関する知識の差や意識の違いなどをテーマに意見交換を行いました。事後学習では、大森学長、中塚先生の講演を聴講した感想の共有や聴講後のそれぞれの意識の変化、ネット社会におけるストレスや問題点、また、今後それとどのように向き合い生活していくのかなどについて話し合い、最後にいくつかのグループから発表がありました。

オンラインではありましたが、活発な意見交換がなされ、充実した交流学习となりました。



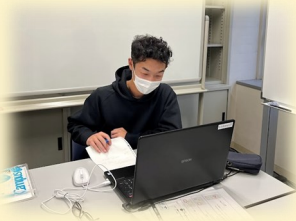
Zoomを活用し、グループディスカッションの時間になったら、各自ブレイクアウトルームへ移動、各グループでの議論を行いました。最初は緊張した面持ちでしたが、自己紹介からスタートし、徐々に打ち解けた様子でした。最後は、記念撮影をして終了しました。

経済学専攻4年 矢野凜音さん

高校生の皆さんは、講演の内容をきいた後も、特に意識に変化はなかったし、これまで通り上手くネットと向き合ってるし、ストレスもなかったとのことでした。本人も周りの人も、何も意識していないことが逆に良かったのかもしれないです。鶴川高校全体が意識せずともルールなどを守りながら生活できているのではないかと思います。

<小山副学長のコメント>

利用意識の中で規定やルールを守っていながらストレスも問題もないことは一番理想的な形ですね。



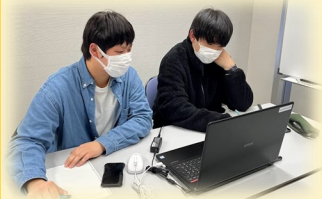
小山副学長からのコメント

経済学専攻4年 千菅弘夢さん

ネットと現実のすみわけをテーマにし、「SNSでの悪口投稿、匿名での誹謗中傷」をどのように防ぐかについて討論しました。SNSは生活に浸透しすぎているため、それらを防ぐことは難しいですが、根本的な解決策として、現実で起こったことをネット社会に持ち込まない、ネットと現実のすみわけを大切にすると結論に至りました。

<小山副学長のコメント>

現実社会とネットを結びつけてしまうことがいろいろな問題を引き起こしている面があります。このすみわけを利用しながら生活することは大事ですね。



参加した皆さんの中では、ネットに関する問題が特に起こっていないということで、良い環境で生活できていることがわかりました。しかし、今後環境の変化でストレスが発生したり、ネットでの検索をよくしたり、一人の時間が増えると余計な情報が多く入ってくるのが想定されます。それによりストレスが増し、ネットにのめり込むなんてこともあり得るのです。何かあったらすぐ周りの人に相談する、一人で抱え込まない、誰かに話しをするということを忘れないようにしてください。皆さんの高校生活、大学生活、リスクに上手く対応して生活してもらいたいです。